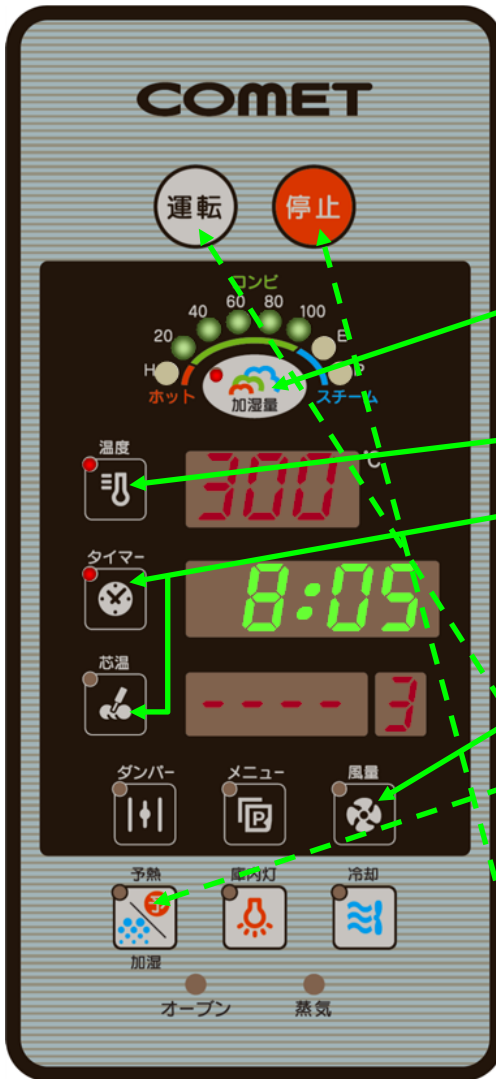


# CSW-G61・G101 使用方法

※ご使用の際は必ず換気を行ってください

## ⚠ 注意

- ・扉の開閉の際、蒸気・熱気に十分ご注意ください。
- ・庫内に水をかける場合は、庫内温度が 50℃以下に下がるまで絶対にかけないで下さい。
- ・お酒や味りん等に含まれるアルコールは煮切るなどして飛ばした上で使用してください。(アルコールが残ったままですと発火・小爆発する恐れがありますのでご遠慮下さい)。



① 換気装置の稼働を確認しガスの元栓と給水栓を開ける。

② 電源スイッチを入れる。(本体側面)

③ 加湿モードを設定する。

※例はコンビモード加湿量 100 の状態です。

④ 庫内温度 を設定する。

⑤ 調理時間(運転モード)を設定する。

《 タイマー・ 連続(c.o n)・ 芯温・ 芯温タイマーのいずれか》

タイマー・連続の切替は⇒ 3秒長押し

芯温・芯温タイマーの切替は⇒ 3秒長押し

⑥ 風量 を設定する。

⑦ を押し、運転キーを押す。[予熱開始]

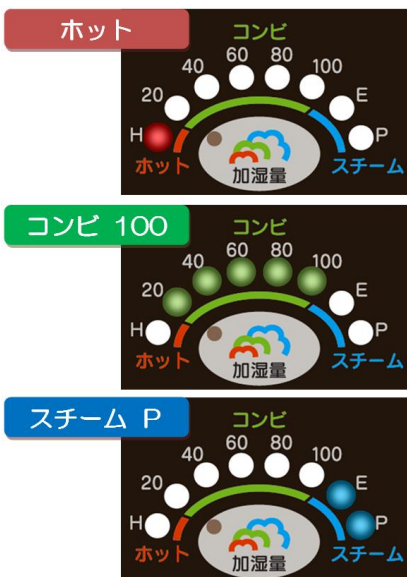
予熱中は「PH」が表示されます

⑧ 予熱完了ブザーが鳴ったら [予熱完了]

⑨ 扉を開け食材を入れ、設定内容を確認し扉を閉めて運転キーを押す。[調理開始]

⑩ 完了ブザーが鳴ったら停止キーを押す。[調理完了]

### ❖加湿モードの表示例



### ※設定変更する場合

⇒変更したいキーを押し、ダイヤルを回します。

### ※途中停止する場合

⇒停止キーを押して下さい。

❖設定温度の確認 ⇒運転中に を押しと設定温度が表示されます。


❖扉を閉めた状態で を押し、扉を開けると庫内温度が下がります。(庫内が50℃に下がると自動停止します。)

❖ を押しと庫内灯がつかます。

❖運転中に を押しとお好みで加湿可能です。

❖ を押しとダンパーが開き、除湿できます。


# CSW-G61・G101 清掃方法

- ① 庫内温度が60℃より高い場合、冷却が必要です。  
扉を閉め、冷却  を押します。  
その後扉を開けるとさらに早く冷えます。  
(庫内が50℃に下がると自動停止します。)

- ② 庫内と扉窓ガラスに「コメットタフナーA」を吹きつけ、扉を閉め10分前後おきます。

(庫内温度が60℃以上だと洗剤が蒸発して危険です。)



- ③ スチーム E 100℃  
10分運転し庫内を洗浄します。  
(  を押す。)



- ④ ブザーが鳴ったら扉を開けハンドシャワーで庫内を良くすすぎます。(泡が消えるまで)

※ ハンドシャワー使用後は『元栓』を閉め、レバーを握って下さい。  
(残留水・圧を抜くことによりシャワーホースの老朽化を防ぎます。)



(a) 裏窓ガラスを、柔らかい布巾で拭いて下さい。(傷つき防止)




(b) ドアパッキンに付着した洗剤、油汚れを、タオル等でしっかり拭き取って下さい。




(c) 目皿、つゆ受けをシンク等で洗って下さい。



- ⑤ 扉を閉めホット200℃  
10分運転し乾燥させます。  
(  を押す。)



- ⑥ ブザーが鳴ったら完了。  を押します。  
(扉を開けておくとパッキンの負担を軽くできます。)

- ⑦ 本体側面の電源を『OFF』にします。  
※ ガスの元栓を閉めて下さい。

- ・扉の開閉の際、蒸気・熱気に十分ご注意下さい。
- ・庫内に水をかける場合は、庫内温度が50℃以下に下がるまで絶対にかけないで下さい。
- ・スチコンを衛生的に、長期間お使い頂く為に弊社純正品「コメットタフナーA」を必ず使用してください。
- ・清掃を開始する時は、「保護手袋・保護マスク・保護メガネ」のご使用をお願い致します。
- ※コメットタフナーA以外の洗剤では、庫内の汚れが十分に落ちない場合や機器を痛める場合があります。また、配管の目詰まり・損傷・不具合については責任を負いかねます。
- ・コメットタフナーAのお問い合わせはコメットカトウまでお願いいたします。

## 毎日のお手入れ

### ドアパッキン

調理によりついた油は中性洗剤を使ってふき取って下さい。



### 目皿、つゆ受け

シンク等で洗浄し、必ず元に戻して下さい。



## 月に1~2回のお手入れ

### ・二重ガラス内側部分

柔らかい布巾で拭いて下さい。  
(傷つき防止)



※機械が十分冷めてから行って下さい。  
※コメットタフナーAなどのアルカリ洗剤は使用しないでくださいガラスの接着材が溶けて剥離します。

### ・パネル下部のフィルター

フィルターを取り外し水洗いし、水気をよくふき取ってから、元に戻して下さい。

